

佐 渡 島 の 金 山

Sado Island Gold Mines



どうゆう わりと
道遊の割戸
手掘りによる大規模な露頭掘り跡

佐渡島の金山はユネスコの世界

新潟県と佐渡市は、「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を目指して共同で調査研究を行ってきました。

令和4(2022)年、世界文化遺産登録を申請するため「佐渡島の金山」の推薦書をユネスコに提出しました。

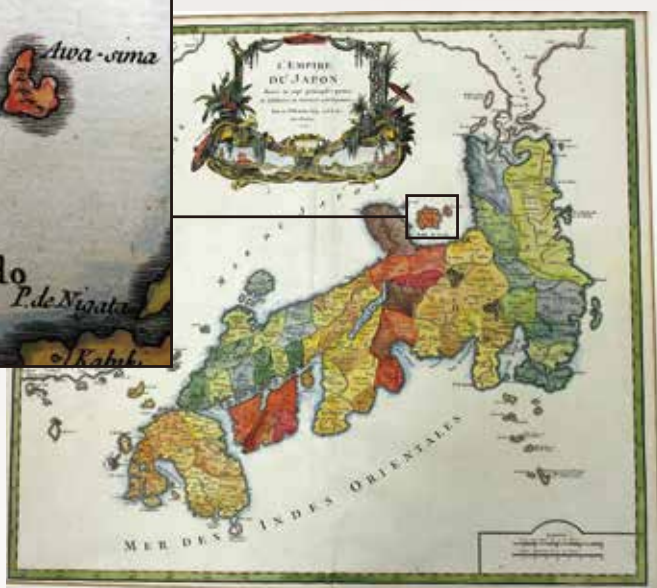
現在、構成資産の保全や来訪者受け入れのための準備など、早期の登録を目指して様々な取組を進めています。

「佐渡島の金山」の世界遺産としての価値

「佐渡島の金山」は、16世紀末から19世紀半ばにかけて、豊かな金鉱山の島である佐渡島において、徳川幕府の管理・運営の下、いわゆる鎖国政策によって海外との技術交流が限られる中、ヨーロッパとは異なるシステムとして発展を遂げ、世界に誇る質・量の金を生産した伝統的手工業による大規模かつ250年以上の長期にわたり継続した金生産システムを示す稀有な産業遺産です。



佐渡の拡大図:「Mines d'or」の表記



ロベール「日本帝国図」[鶴見大学図書館所蔵]



佐渡小判
[オランダ王国貨幣コレクション, アムステルダム]

金鉱山の島として知られた佐渡島

17世紀後半、佐渡を含め日本で製造されたおよそ100万両の小判がオランダを通じて国外に流出したと言われています。我が国最大の金生産地であった「佐渡島」は18世紀のフランスの地図において「金鉱山(Mines d'or)」と記され、ヨーロッパの国々でも注目されていたようです。

文化遺産登録を目指しています

相川鶴子金銀山

16世紀末から19世紀半ばにおいて、日本最大の金銀鉱山でした。

鉱山技術の発展を示す遺構や集落・鉱山町などがまとまった世界的にも稀な遺産です。

西三川砂金山

佐渡で最古の砂金山です。江戸時代の砂金採取技術を示す遺構が多く現存します。



砂金(西三川砂金山)
[個人蔵]



金鉱石(相川鶴子金銀山)
[株式会社ゴールデン佐渡所蔵]

佐渡島

新潟県

金を求めて「目に見える金」と「目に見えない金」

佐渡は国内最大の金鉱山として金を産出し続けました。佐渡には2つのタイプの金鉱山があります。西三川砂金山の“目に見える金”である「砂金」と、相川金銀山の硬い「金鉱石」に含まれる“目に見えない金”。これらを効率的に得るために、最先端の技術と生産の仕組みが整えられました。

豊富に残る歴史資料 ～佐渡金銀山絵巻・技術書～

徳川幕府の管理・運営下に置かれた佐渡では、幕府への報告のための膨大な記録が作成されました。国内外に約150点が残る「佐渡金銀山絵巻(鉱山絵巻)」をはじめ、技術書や古文書など、佐渡に関する歴史資料は操業当時の鉱山での作業の様子や技術の内容を詳細に伝えるとともに、現地の遺跡・遺構の解釈・理解においても欠かせないものです。



『佐渡金銀山絵巻』(18～19世紀)



鉱石の品質の見分け方を描いた図(『金銀山大概書』18世紀)

にし み かわ さ きん ざん 西三川砂金山

Nishimikawa Placer Gold Mine

佐渡における金産出の歴史は平安時代に遡り、12世紀に成立した『今昔物語集』に登場する砂金採取の場所が西三川砂金山とされています。

西三川砂金山では、山を掘り崩して地層の中にある砂金を含んだ土砂を水路に落とした後、堤の水を一気に流し込んで余分な土砂を洗い流す「大流し」と呼ばれる技法が用いられました。その際に必要な水量を確保するため、水源から長い水路を設けて堤に大量の水を貯めておきました。こうした採掘跡や水路跡が広い範囲にわたり残っています。



砂金採掘跡と鉱山集落



鉱山の神を祀る大山祇神社[撮影 西山芳一]



砂金採掘の様子を描いた浮世絵

二代広重画「諸国六十八景 佐渡金やま」19世紀後半
[長岡市立中央図書館所蔵]



虎丸山「大流し」により掘り崩された採掘地[撮影 西山芳一]



鶴子銀山代官屋敷跡 人工的に造られた平坦地



まぶ 大滝間歩 鶴子銀山を代表する坑道の一つ [撮影 西山芳一]



百枚平地区 大規模な露頭掘り跡



あ い か わ つ る し き ん ざ ん 相川鶴子金銀山

Aikawa-Tsurushi Gold and Silver Mine

つ る し き ん ざ ん
鶴子銀山

16世紀中頃に発見された佐渡最大の銀山で600か所を超える採掘跡が確認されています。地表近くの鉱石を掘り取る「露頭掘り」や、鉱脈を追いかけて掘り進む「ひ追い掘り」、いくつもの鉱脈を横断して水平なトンネルを掘る「坑道掘り（横相）」など、時代の異なる様々な採掘方法の痕跡を見ることができます。さらに、代官屋敷や鉱山集落跡などの銀山に関連する遺跡も多く発見されています。



屏風沢地区
ひ追い掘り跡

相川鶴子金銀山

Aikawa-Tsurushi Gold and Silver Mine

あい かわ きん ぎん ざん

相川金銀山

相川金銀山の本格的な開発は慶長6(1601)年に始まり、佐渡は徳川幕府の直轄地とされました。石見や生野、甲斐などから山師と呼ばれる鉱山経営者が集められ、測量技術、排水技術、金銀製錬・精錬技術(灰吹法、硫黄分銀法、焼金法)が導入されました。これらの技術により、相川金銀山は世界的にも有数の金生産量を誇ることとなり、その後、佐渡の技術は全国各地の鉱山に伝えられました。

採掘から小判製造まで行った鉱山は国内でも佐渡だけであり、その工程を示す遺構が良好に残るとともに、多数現存する金銀山絵巻にも鮮やかに描かれています。



佐渡奉行所跡



どうゆう わりと
道遊の割戸

上空から 鉱脈を掘り進めた結果、山の中央がV字形に掘り割られた様子がわかる
(全長120m、幅10~30m、深さ74m)



まぶ
大切山間歩

坑内換気のために並行して掘られた坑道



相川上町地区 鉱山町の景観が残る



佐渡奉行所跡出土品【撮影 小川忠博】

茶道具などの高級陶磁器や選鉱・製錬の道具類が多数出土



『佐渡の国金堀ノ巻』[相川郷土博物館所蔵]佐渡金銀山絵巻の小判製造の場面



南沢疎水道(17世紀末に開坑された排水坑道)

6か所から同時に掘り進める「迎え掘り」工法を採用し、誤差なく貫通させています。壁面や天井は丁寧に仕上げられており、当時の掘削技術の高さを物語っています。



うとう
現在も受け継がれる鉱山町伝統の祭り(善知鳥神社祭礼)

毎年10月19日に行われる島内最大の祭礼です。鉱山の夫工(採掘に従事する人)たちがタガネを持って舞ったのが始まりとされる鬼太鼓も舞われます。



佐渡特有の鉱山文化 神事芸能「やわらぎ」

鉱山の神の心をやわらげるとともに、硬い鉱脈がやわらかくなるよう、祈りを捧げるものです。



人類共通の宝物

世界遺産とは、自然と人類によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきた、人類共通のかけがえのない宝物です。戦争、自然災害、環境汚染などにより危機にさらされているものも含まれ、国際協力を通し、保護の下に国境を越えて世界のすべての人々が次世代に残していくべきものが世界遺産です。

ユネスコと世界遺産

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は国際連合の専門機関です。ユネスコ本部にある世界遺産センターは、世界遺産条約に基づき、世界遺産を未来に守り伝えて行くための国際協力の枠組みを作り、世界遺産の保護を呼びかけています。



きらりうむ佐渡 ガイドンス施設

“佐渡島の金山への旅はここから始まる”

平成31(2019)年4月、佐渡島の金山の玄関口として、現地を訪れるための情報発信拠点「きらりうむ佐渡」がオープンしました。江戸時代の金山の歴史を示す展示や生産の様子などをわかりやすく紹介したシアターで佐渡島の金山の世界をご案内します。

〒952-1562 佐渡市相川三町目浜町18番地1

アクセス: 両津港から車で約50分、小木港から車で約75分

Tel: 0259-74-2215 Fax: 0259-74-2223

開館時間: 8:30~17:00(展示室最終受付16:30)、休館日12/29~1/3

観覧料: 大人300円、小中学生150円/団体(15人以上)大人250円、小中学生100円



佐渡を世界遺産に

佐渡島の金山の世界遺産登録にご支援をお願いします

新潟県 観光文化スポーツ部 文化課
世界遺産登録推進室

〒950-8570 新潟市中央区新光町4-1

Tel: 025-280-5726 Fax: 025-280-5764

E-mail: ngt150030@pref.niigata.lg.jp

佐渡市
観光振興部 世界遺産推進課

〒952-1292 新潟県佐渡市千種232

Tel: 0259-63-5136 Fax: 0259-63-6130

E-mail: k-goldmine@city.sado.niigata.jp

詳細はホームページで

佐渡島の金山



二次元コードからもアクセスできます

